



1.車体右側面には天面ブラッシュド×側面パフのコンビジットパフブラッシュドを装着 2.センター部は深く彫ったディープコーン仕様とし、伝統的なシルエットに深みのアレンジを加えた 3.メッシュ開口部は段を設けて立体感を強調。シリーズ最細のスポークでシャープさを引き出した 4.繊細なメッシュデザインだが断面を分厚くすることで強度を増した 5.車体左側面にはブラッシュドを装着。全体に落ち着いた印象となった



6.カーボン仕様のフロントリップとフロントダクトスプリッターを組み合わせることで、M3のイメージから離れることなくスポーツテイストだけを強調した 7.ボリュームを与えることで迫力を増すリアディフューザー 8.トランクスポイラーはMパフォーマンス製を装着する

ALLZU Motorenbau BMW M3 × WORK GNOSIS GR204

伝統のメッシュデザインを最新理論アップデート
**国産ブランドの巨人が放つ
もっともシャープなメッシュモデル**

新たに立ち上げられたGRシリーズの第4段モデルは、
シンプル&シャープを極めたメッシュモデル。
最新エアロで固めたM3とのコンビネーションで見る者を惹きつける。

問●ワーク TEL.06・6746・1133 www.work-wheels.co.jp
アルツトモレーンバウ TEL.072・750・3646 www.allzu.com
写真●南井浩孝 文●浦野浩之



年式がどれだけ変わってもBMW×メッシュモデルのコーディネートは抜群の相性をみせる。両者を最新にアップデートしたM3×GR204の組み合わせは、まさにシャープの極みだ

SPEC

エンドcc
フロントカーボンリップスポイラー
フロントカーボンダクトスプリッター
リアカーボンディフューザー
Mパフォーマンス カーボントランクスポイラー
ホイール:グノシスGR204
F:9×20+17 ¥113,000+税
R:10.5×20+30 ¥116,000+税
足回り KW車高調Ver.3

本場デザインに敬意を払う
ホンモノ同士がコラボレート
欧州車に国産ホイールを履かせる
ことが、いまほど普通ではない時代
(といってもほんの数年だけ)
にワークが発表したグノシスは、
まさにシーンを一変させるほどの衝撃
的だった。思い返せば欧州ブランド
偏重から、アメ鍛と呼ばれる北米の
鍛造ホイールが導入されはじめた時
期のこと。当時は国産セダンのお家
芸であった精密なインセット計算に

よるツライチや、深いリムを履かせ
るワザを含めて、とにかくグノシ
スの存在は新鮮に映ったものだ。
そこから瞬間にブレイクし、国
産ホイールという選択肢に市民権を
与えたという意味でも、グノシス
は非常に大きな役割を果たした。そ
して成功に満足することなくシリ
ーズを拡大し続け、様々なアプロ
チで欧州車の足元を飾ってきた同ブ
ランドだが、さらなる変革を求めたG
R(グノシス・レポリューション)
シリーズを発表したのが、昨年のオ

ートサロンのこと。会場で発表され
たGR201を皮切りに、先日のス
ーパーカーニバルでは早くも4作目
が披露された。
登場いただくのは、エンドCCが
Mに向き合うために立ち上げたリバ
レンスラインでフルコーディネートしたアル
ツトモレーンバウのM3。その名の
通りMに対する畏敬の念、つまりM
らしさを尊重したカスタマイズこそ
がテーマだ。そうした想いを込めた
一台だからこそ、足元には相応しい
ホイールが求められる。

足元に収めるGR204は、ナツ
トホールもデザインのひとつと捉え、
5ナットホールに最適化した10交点
メッシュデザインが特徴だ。ターゲ
ットは欧州車のなかでもプレミアム
カーに絞り、ブランド共通のテーマ
でもあるシンプル&クリーンにわか
え、シリーズ中もっとも細いスポ
ークを与えることで、極めてシャ
ープな印象を醸成させている。当然なが
らBMW×メッシュのコーディネート
は老若男女を問わず、ハズレな
しの鉄板だが、そうした組み合わせ

せの妙を超え、このM3とGR20
4のマッチングは心に響く。考えて
みればエアロもホイールも、日本人
が欧州の伝統に倣い、日本人のため
に生み出した作品なわけ、ともに
歴史を刻んできたブランド同士だか
らこそ、これほど響きあうのだろう。
ついグノシスだからと使い勝手や
フィニッシュ、バリエーションな価格に目
がいくが、GR204の本当の魅力
は欧州を発祥とするホイールに畏敬
の念を込めたデザインであり、溢れ
出る普遍的な美しさだと感じた。